



議員3期目も残りわずかですが、初心を忘れず全力で市の課題に取り組んでいます。現在まで太宰府市議会総務文教常任委員会委員長、予算・決算特別委員会の委員長として市政全般にわたり市の考えを質し具体的な提案を行ってきました。今後もさらに議員としての力をつけ、職責を果たしてまいります。ご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

■ 臨時議会

体育複合施設

11月の臨時会本会議において体育複合施設(総合体育館)新築工事請負契約が、賛成9、反対7、で可決されました。

本市の市債(借金)残高は平成25年度末で約203億円です。

市の説明ではこのうち地方交付税や補助金等還付が86%あり、市の実質負担額は14%といます。しかし平成26年度をみると総合子育て支援センターと体育館建設の起債(新たな借金)だけで約31億円にもなります。

また、これらの事業の市債発行に対して5億4千万円程度が交付税措置されるといいますから、これを除いた市の実質負担額は26億5千万円で、市債全体約235億円における市の実質負担額は9.5ポイント増の23.5%、約55億円です。

国士舘大学跡地を約4億5千万円(債務負担行為)で購入し、改修工事に約3億円かけていることや、体育複合施設の年間維持費(8千万円超?)を合わせ、相次ぐハコ物(特に体育館)の建設は後の世代の大きな負担となります。

■ 12月議会

市長車購入

新車を購入するため限度額640万円の債務負担行為(予算の先取り)が補正予算に計上されました。

「選挙前になぜ計上するのか」、「現在の車種・使用年数・購入予定の車種は」との質疑に対して、「現在はトヨタクラウンで14年経過」、「走行距離12万キロ」、「納車まで半年かかるので債務負担の計上を行った」、「予定車種は同種のハイブリット車」と説明を受けました。

学童保育所

入所要件が「3年生まで」でしたが、平成27年度から「6年生まで」になります。

歴史と文化の環境税

適用期間をさらに3年延長します。平成25年度の税収は約6700万円でした。

指定管理者の指定

史跡水辺公園(市民プール)の指定管理者を現在のシンコースポーツ(株)九州支店から太宰府市文化スポーツ振興財団に替えるものです。

討論を述べ反対しました。反対理由は、

- ① 元々財団が管理していたが、平成18年にシンコーを指定管理者にした。
その時の市の説明では、経営能力や実績、高い専門性、管理経費の縮減、市民サービスの向上見込み、などから決定したと伺った。その後の管理と水泳教室などの事業展開、経費の縮減に関して、財団のころと比べ明らかな改善があり、現在まで利用者の評判も良い。
財団に戻すというが、財団は専門的なノウハウを持っておらず、管理内容も独自事業も、以前に戻るだけと考える。また今回の財団の指定管理料がいくらなのか説明がない。
- ② 財団は市と関わりが深く、同施設を管理していた平成17年度までは館長、事務長の職を置き、市のOB等が就任していた。
今回の指定に関して同じような体制をとるのかどうか説明がない。…などです。

一般会計補正予算

5億3767万5千円を追加し、予算総額を244億7608万3千円としました。

主な内容としては、現在建設中の総合子育て支援施設における太陽光発電設備設置事業、県の助成金を活用して行う災害対策資材購入費、水城跡の本格整備に向けた地盤調査委託料などです。

また繰越明許費が1件、債務負担行為(市長車分含む)の補正が12件あります。

■ 高齢者福祉の充実

太宰府市民を対象とした地域密着型特別養護老人ホームの新設を提起します。

特別養護老人ホームは待機期間が長く、なかなか入れないのが実情です。

待機者は自宅でデイサービスやホームヘルパーを利用したり、配食や見守りなど一定のサービスが付く高齢者向け集合住宅へ入居したり、様々な対応をとられていますが、一部には「介護難民」と言われる困難な状況も出現しています。

地域密着型特別養護老人ホームは認知症高齢者や独居高齢者の増加等を踏まえ、高齢者が要介護状態になっても、できる限り住み慣れた自宅や地域での生活を継続できるようにするために創設された地域密着型サービスの一つです。

29床以下と小規模ですが実現に向け努力します。

詳しくは → f-icq.com

または →

門田直樹

検索